

令和元年度 学校関係者評価書

玉幡小学校 学校関係者評価委員会

○ 学校関係者評価委員会の経過

- 1 日時 令和2年2月6日(木) 午後2時50分～4時00分
- 2 出席者 学校評議員 鈴木澄雄 志村俊光 村松まゆみ 松沼貴子
PTA代表 勝村和重(会長) 飯野亜矢 梅津佳美 新海文裕 保坂由紀子
(4名とも副会長)
学校側 丸茂和也(校長) 長谷川佳代(教頭) 金丸恭子(教務主任)

3 内容

- ①学校より、教職員の自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果と達成状況、今後の改善策の説明
- ②意見交換
- ③自己評価書の改善策について

4 学校関係者評価の結果

◆自己評価書の項目ごとの分析と改善策について

- 1 全体評価について 妥当である
- 2 項目ごとの評価結果
 - I 学校教育目標に関して・学校経営について 妥当である
 - II 学校運営について 妥当である
 - III 学習指導について 児童の目指すべきところを明確にして改善策を立てるように訂正する。
 - IV 生徒指導について 妥当である
 - V 地域との連携について 妥当である
- 3 まとめと課題について 妥当である

5 意見、感想等

○教職員の自己評価結果全般について

- ・子どもの対応をきめ細やかに行ったり、子ども達へしっかり向き合ったりしていて教職員ががんばっていることが伝わる。

○児童の様子について

- ・子ども達は朝夕だけでなく、来校時にも挨拶もよくしてくれている。全体として学校生活を楽しく過ごしているようだ。
- ・5年生の総合的な学習の時間の一環で地域に呼びかけたゴミの回覧板が有効で地域の方々に内容がよく伝わった。日頃からゴミの分別をしなければならないことはわかっているが、なかなかできない現状がある。しかし、子ども達の手書きの字で書かれたチラシは非常に効果的で、大人もやっていたかなければという機運を生む機会となった。

○学習指導の達成状況と改善策について

- ・読書時間が年々減少していることをゲーム時間の増加に結びつけることはやや短絡的ではないか。目標掲げて、それに対してどう取り組んでいくかで評価するべきではないか。
→実際にはゲーム時間が多くて就寝時間が遅くなる児童がいたり、宿題をしてこない児童がいたりする。家庭でも指導できていない現状があるから結び付けたが、客観的なデータはないので、修正したい。
- ・ゲーム時間については保護者がだめなものだめと言えなければ、自制心が育っていかないのではないだろうか。
- ・一方的にゲーム時間の制限を加えても子ども達は納得しないであろう。ゲームを制限するだけではな

く、他に楽しめることを見つけたり、親子でのコミュニケーションをとっていくことが大切ではないだろうか。

- ・読書感想文への取り組みが自由になったことで、子ども達の文章を書く力があまりつかなくなってきたように感じる。
→読書感想文については子ども達への影響について賛否両論あるので、近年指導はするが、取り組みについては選択制としている。
 - ・子ども達が今後成長の過程で様々な場面において文章表現の力をつけることは非常に重要である。そういう意味でも言語活動を豊かにできる子ども達を育ててもらいたい。対話的な授業に取り組んでいたり、人と関わったりしていくことで、読んだり書いたりできるようにして行ってほしい。
 - ・授業で辞書をひくことや文章を書く機会が多いと言語力が自然に身についていくこともある。
- 様々なご意見から目指すべき姿は豊かな言語活動ができる児童と考えられる。この児童像は教職員も昨年度の課題からも求めていたものなので、具体的な手立てを探り実践していきたい。

○学校評価について

- ・このような取り組みをして課題については改善しようとする試みは非常にありがたい。
- ・どのような組織でも現状を分析して改善案を出しそれに取り組んでいくことは非常に重要だと思う。改善策を具体的に行動できることを今後も継続して行ってほしい。

○その他

- ・祭日や長期休業には子ども達も塾や習い事やスポ少があり、地域の行事になかなか参加できない現状がある。
- ・地域での活動に参加しないだけでなく誰がいるのかもよくわからないようなケースも見られるので、PTA活動と地域がもっと連携できる方策も探していきたい。
- ・保護者が子どもに関われる時期は限られているので、もっと保護者がPTA活動や様々な場面で積極的に関わっていかねばならないと感じた。

記載責任者（玉幡小学校 学校関係者評価委員）

勝村 和重

